

りんごのわい性樹の省力型低樹高栽培（結実部位の低下）法

樹齢が進み、枝葉が混み合ったりんごわい性樹を対象とした省力型樹形として、主幹の切り下げと下枝側部を拡大することで結実部位2～2.5m程度の低樹高化が可能となり、作業性の向上が図られる。

< 低樹高仕立て法の手順 >

樹高の切り下げ処理は樹勢に応じて行い、「ふじ」等に見られる強樹勢樹は一挙に切り下げるのではなく、2～3年かけて徐々に切り下げる。

初年目の処理は、樹勢をコントロールするために、誘引等の実施により下部側枝の先端をやや斜立させ拡大を図る。（先端部は必要に応じて誘引を実施する）

配置する下部側枝の本数は2～4本とする。

骨組みとなる側枝の配置は受光体制を考慮し、なるべく南側の側枝は低く、北側の側枝はこれより高く配置する。これらの側枝に成り枝を配置し枝に厚みを持たせる。

骨組みとなる下部側枝より上部（地上から120cm以上）には、下枝に邪魔にならない小さめの成り枝を数本配置する。

主幹延長枝の取り扱い、目標とする高さの位置で毎年切りもどすが、樹勢が落ち着いた後、せん除し、最上部を成り枝として利用しても良い。

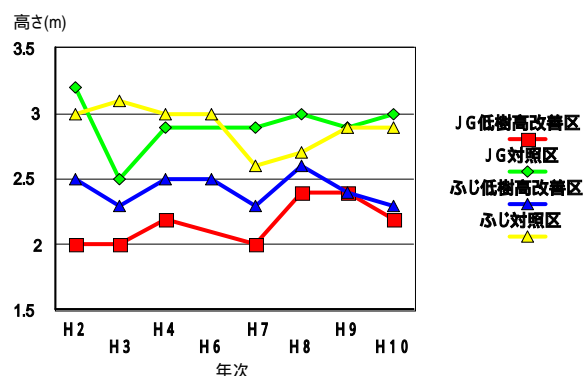


図1 結果部位の推移

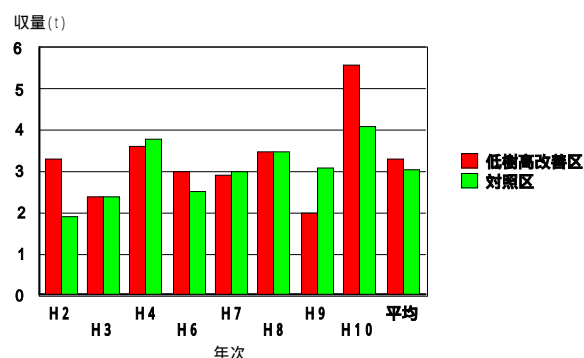


図2 「ふじ」の収量の推移

表1 低樹高栽培の作業性

(hr/10a)

品種	年次	区名	摘果作業	夏季剪定	着色管理	収穫作業
ジョナゴールド	91	低樹高区	30.2 (66.5)	2.4 (82.8)		
		対照区	45.4	2.9		
	93	低樹高区	22.7 (77.2)	6.2 (101.6)	21.5 (116.2)	
		対照区	29.4	6.1	18.5	
	95	低樹高区	35.5 (49.0)		22.7 (34.0)	
		対照区	72.5		66.7	
98	低樹高区			11.0 (80.9)	16.0 (82.1)	
	対照区			13.6	19.5	
ふじ	91	低樹高区			33.0 (63.5)	11.8 (89.4)
		対照区			52.0	13.2
	93	低樹高区		3.0 (96.8)	10.8 (85.0)	34.1 (87.4)
		対照区		3.1	12.7	39.0
	95	低樹高区			17.0 (96.6)	
		対照区			17.6	
98	低樹高区				25.2 (134.8)	
	対照区				18.7	

注) ()内数値は対照区を100とした場合の作業時間割合